

ストックサイロ保温に効果

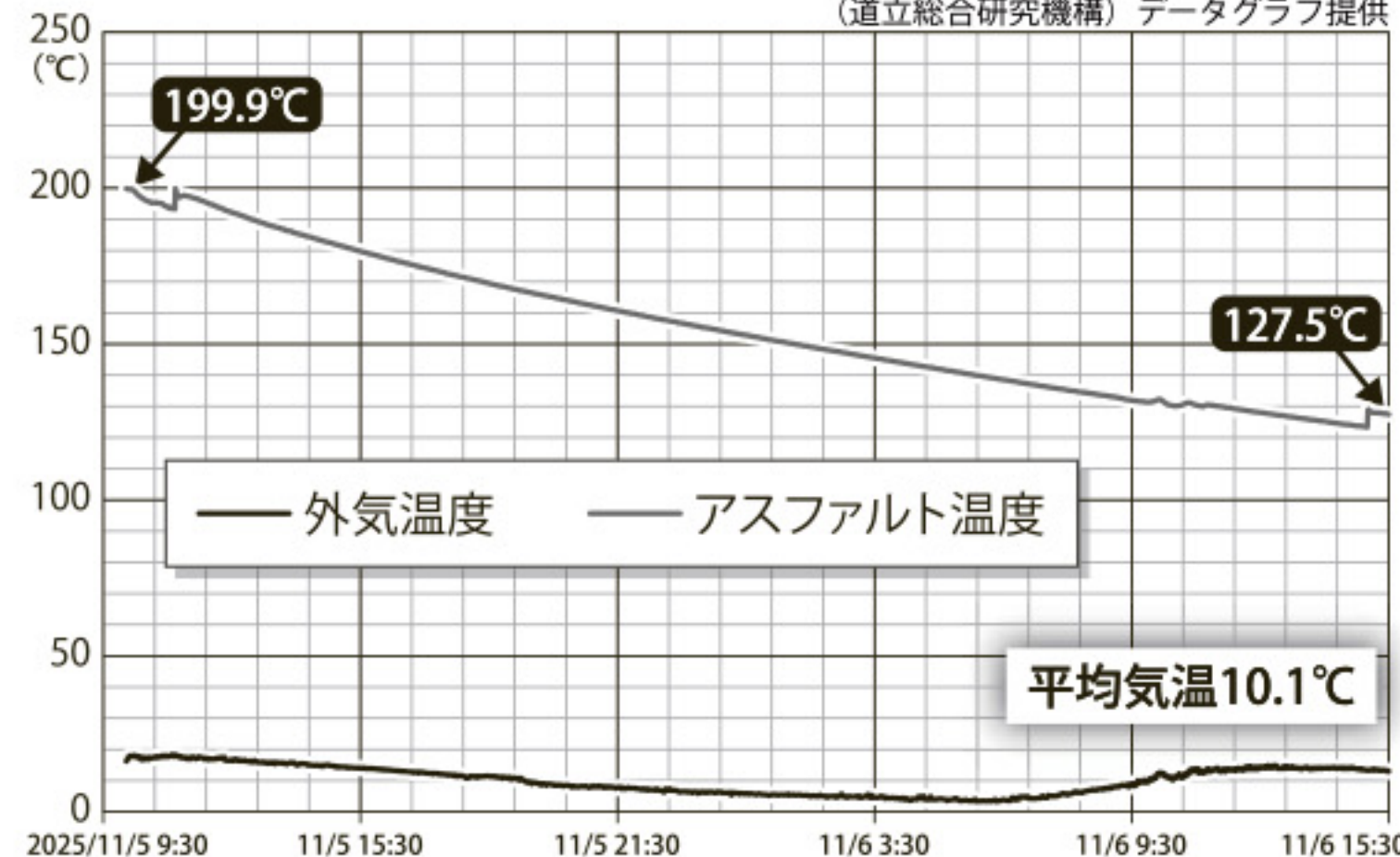
リバースプラン(本社・札幌)は、道立総合研究機構で自立式アスファルト合材保温箱「エコアスボックス」の連続保温性能試験を実施した。計測開始から29・5時間後の温度差は72・4度となり、十分な保温性能があることを証明。出荷から2日後でも舗設規格温度を保持するため、週休2日制を採用するアスファルトプラントへの対応策として提案する。

国土交通省の新技术情報提供システム(NE-TIS)に登録している製品。登録番号はCB-250012-Aで、維持管理、災害、復興支援技術で利用する場合、入札評価や技術評価点のインセンティブが付与される。初期モデルは、シート養生比較試験で3・5倍の保温効果を発揮。再調達・再加熱による廃棄ロスをなくし、工程短縮や施工性の向上が期待できる。

自立式アス合材保温箱 エコアスボックス リバースプランが試験

2025年【エコアスボックス】連続保温性能試験

(道立総合研究機構) データグラフ提供



今回の連続保温性能試験では、最新モデルの2・4ト兼用マルチタイプ「GX-555」(最大積載量3ト)を使用。ストック用サイロとしての活用可能性を探った。

試験は11月5・6日に

実施。密粒度アスコン1

・5トを積載し、平均外気温10・1度の環境下で29・5時間後の温度を計測。開始時は199・9度で、終了時は127・5度と温度差は72・4度、1時間当たりの平均

下降温度は2・45度という結果になった。鈴木代表は「ストックサイロとして十分な保温効果を確認できた。今回は最大積載量の半分だったが、満載時は保温効果が80%増幅する」と推察する。

初期モデルと最新モデルの比較でも、独自算出で保温性能が30%向上したと試算する。ストック用サイロとして実用性が向上。同社はプラント休日前の最終出荷時(午後5時)が18.5度と仮定した場合、翌日午後3時で推定温度が15.1度、翌々日の午前10時で12.4度と、舗設規格温度に

保たれるとシミュレーションしている。働き方改革や週休2日制に対応するため、土・日曜日を閉鎖とするアスファルトプラントが増えている。エコアスボックスを出荷プラント、リース・レンタル会社、建設会社が保有することで、働き方改革への対応が可能となる。

鈴木代表は「アスファルト合材は、災害地域のプラントが稼働不能となった場合にも対応できる、緊急時の供給体制が求められている」と指摘。災害備蓄品として道内の重要拠点に常備することを提案している。



道立総合研究所で実施した試験の様子